

講 義 内 容

(1) 開講に当たって

山 田 一 郎 [航空環境研究センター所長]

(2) 講演 空港環境整備協会の環境対策事業

講師 安 田 忠 臣 [空港環境整備協会 常務理事]

概要 空港環境整備協会が実施している空港周辺環境対策事業、空港・地域共生対策事業等について説明する。

(3) 講演 国の空港周辺対策

講師 福 田 恭 平 [航空局 環境・地域振興課 課長補佐]

概要 国土交通省において実施している「公共用飛行場周辺における航空機騒音による障害の防止等に関する法律」に基づく対策を中心として、これまでの騒音対策の経緯や予算等を概説する。

(4) 講演 航空機騒音の評価とLden

講師 山 田 一 郎 [航空環境研究センター所長]

概要 時代とともに航空交通の状況、機種や運航方法、便数が変化し、騒音状況や苦情、騒音影響の見方も変化している。それらを踏まえ、本稿では航空機騒音評価に関する最新の知見を紹介し、基本となる騒音評価量Ldenの考え方や意味について説明する。

(5) 講演 航空機騒音と健康影響評価の動向

講師 金 子 哲 也 [杏林大学教授 保健学博士]

概要 交通騒音と脳・心臓血管系疾患のリスクの関連について欧州では議論が高まり、世界保健機構（WHO）でも厳しい指針が公表されている。そもそも健康影響評価法とはどのようなものか、欧州の事情はわが国にも該当するのか等について、近年の知見も含め概説する。

(6) 講演 海外主要空港周辺における環境施策並びに運航方式の現状

講師 後 藤 恭 一 [航空環境研究センター 主任研究員]

概要 航空を取り巻く環境が大きく変化し、今後とも航空機の離着陸回数の増加が見込まれる中で「航空機騒音対策」といった環境面の視点から検討を行うことは重要である。そこで、諸外国の主要な混雑空港を取り上げ、わが国における航空機騒音対策の体系との差異について解説する。

(7) 講演 航空機の運航と航空管制

講師 高橋 英昌 [航空環境研究センター 調査役]

概要 日本の空には一日5千機余りの旅客機が飛び交っており、羽田空港だけをとっても約1,200機が離発着している。多くの航空機を秩序良く飛行させる役目を担う航空管制業務について概要を説明し、航空機の運航方式と空港毎に実施されている滑走路の使用方法や飛行経路について具体的な解説を行う。

(8) 講演 航空機の騒音とエンジン排出物の基準動向

講師 松川 尚生 [航空局 航空機安全課 航空機技術基準企画室 安全管理推進係長]

概要 航空機の騒音対策を実施するためには、航空機の騒音発生源を把握することが重要である。本講では航空機の騒音発生源を説明した上で、国際民間航空機関の航空環境保全委員会（ICAO / CAEP）における動向を踏まえた、騒音に係る基準の動向について説明する。また、航空機の騒音基準に加えて、エンジン排出物の基準動向について紹介する。

(9) 講演 航空機騒音予測の基本

講師 仲田 貴文 [航空局 環境・地域振興課 騒音防止技術室長]

概要 航空機騒音対策を効率的・効果的に実施していくためには、騒音予測・計測・評価を対策の企画・立案過程に的確に取り込むことが肝要。本講ではその中でも、騒音予測の考え方や手法概要を中心に説明し、騒音予測のイメージ、騒音対策における騒音予測の意義、留意点、活用方法などについて、実務的な説明をする。

(10) 講演 航空機運航と大気環境・地球温暖化

講師 鈴木 孝治 [慶應義塾大学教授 工学博士]

概要 航空機エンジン排出物の種類と量、及びそれらの空港周辺大気や地球環境大気への影響などに関する理解に役立つ説明と資料を提供する。航空機エンジン排出物については、航空機エンジン排出物の測定データ、排出ガス拡散シミュレーションによる予測データなどを紹介する。また、空港周辺大気への影響や地球環境大気への影響については、大気についての環境基準や国際民間航空機関の航空環境保全委員会（ICAO / CAEP）の考え方などを中心に概説する。

(11) 講演 航空機騒音の測定方法・測定実習－1

講師 吉岡 序、後藤 恭一、橋本 弘樹 [航空環境研究センター]

概要 環境基準の達成および維持する上で、航空機騒音の実態を適切に測定し評価することが重要である。そこで航空機騒音測定および評価について、航空機騒音測定マニュアルに基づいた研修を行う。

測定・評価に関する基礎知識・測定方法についての解析を行う。

(12) 講演 航空機騒音の測定方法・測定実習－2

講師 吉岡 序、後藤 恭一、橋本 弘樹 [航空環境研究センター]

概要 実習形式により、実際に測定機器を使用して計測技術の習得を目指す。